

「Re: エアコン・プロジェクト」

— 「地球のエアコン」 である森を保全し再生する



グヌン・グデ・パングランゴ国立公園

ダイキン工業(株) CSR・地球環境センター
CSR コミュニケーション G リーダー
中川智子

ダイキングループは、自らの事業が地球環境に与える最も大きな影響は地球温暖化への影響であると考え、当社の主力商品であるエアコンの省エネルギー化をはじめとした、温室効果ガスの排出抑制に取り組んでいる。それに加え、森林を保全・再生し、生物の生息地の保全や CO₂ 吸収量の増加を図る取り組みを行っている。そのひとつ、「Re: エアコン・プロジェクト」について紹介したい。

お客様とつながる森林再生

ダイキンでは、楽しくエアコンの省エネ運転をしながら森林再生を支援できる「Re: エアコン・プロジェクト」を進めている。

当社省エネルームエアコン「うるるとさらら (R シリーズ)」は、快適性と省エネ性を両立させる「快適エコ運転」機能を備えている。エコ運転の時間に応じてポイントがたまると同時に、リモコン画面上に表示された木が成長し、その成長によって省エネを実感できる。また、「リモコンの木」が「成木」となった時点でご連絡いただくと、「森林再生プロジェクト」の支援者として、森林再生地に設置した看板にお客様のお名前を掲載する。

お客様とつながる森林再生



「森林再生プロジェクト」の実施地は、インドネシア・ジャワ島にあるグヌン・グデ・パングランゴ国立公園。インドネシア政府（林業省）や国際 NGO コンサベーション・インターナショナルとの協働で、植林活動のみならず、地域住民の代替生計の開発や森を守る重要性について啓発活動を行う、住民参加型のプロジェクトである。2008 年 6 月から実施しており、2011 年までの 3 年間で約 200ha に 8 万本の植樹を実施。さらに 2014 年までプロジェクトの延長を決めた。

住民参加型プロジェクト

グヌン・グデ・パングランゴ国立公園は、インドネシアの首都ジャカルタから車で 2～3 時間の距離にあり、貴重な熱帯林で覆われている。熱帯林は、雨季には水を土の中にため洪水を防ぎ、乾季には水を供給し続ける天然の巨大な貯水池となり、ジャカルタを含む周辺住民にとって、なくてはならないものである。またここは、絶滅危惧種のジャワギボンをはじめとした、多様な動物のすみかでもある。過去数十年の間に、ジャワ島の多くの森林は、農地への転換や生活を支えるための伐採により失われてしまっており、国立公園はまさに動物たちの最後の砦となっている。

森林の再生は単に緑を増やすだけでなく、水資源の保護という意味も持つ。森が雨を



ジャワギボン



苗場での苗づくり



国立公園職員との協働

蓄える機能を担うことで、洪水や地すべりなどの災害を防ぐことができる。また、そこにすむ生物の多様性を守ることもつながる。

国立公園の周辺にはいくつもの集落があり、キャッサバなどの農作物を栽培し生計をたてている。農地は国立公園の境界内にも広がっている。公園内の森林を伐採した土地が農地として使われており、その土地を政府・地元住民・NGOと協働で、もとあった森林の姿に戻していく。この土地を農地として使えなくなれば住民は生活の手段を失ってしまうため、森林の再生と彼らの生活を両立させることが重要となる。

森林再生作業は地元住民に委託、約500名の住民が参加している。この土地の自生種と、果樹など将来住民がそこから生計を得られる樹種を数種類、住民の希望を尊重して選び植えていく。国立公園や地元NGOの職員が植え付けや管理の方法などを指導する。苗作りも住民に委託、周囲の森林からタネを集めて苗を作る。できた苗をプロジェクトが買い取るかたちで、住民の生計を支援



アグロフォレストリー



移動式環境教育

している。

苗と苗の間には農作物を植える。「アグロフォレストリー」と呼ばれる手法で、植樹した木から果実などの収穫を得られるようになるまでの間、農作物から収入を得ることが可能となる。果実が住民の生活を豊かにする助けとなるよう、今後は、果実をジャムやドライフルーツに加工する技術などを身につけるための支援も行っていく。

森林再生に加え、子どもを含む地元住民のプロジェクトへの理解と環境意識を高めるため、移動式環境教育を行っている。教育は、森林再生活動や違法な森林資源の利用から森林を守る活動への住民の参加を後押ししている。また国立公園内で、仕掛けカメラを使用した生物多様性調査も実施している。

これまでの取り組みは確実に広まりつつあり、インドネシア政府からは「持続可能な新林再生プロジェクト」の成功事例として高く評価され、2010年には感謝状を拝受した。

「森は地球のエアコン」

2011年7月からは、世界自然遺産である知床半島の自然環境保全復元事業の支援も始めた。岩尾別川流域において、荒廃したカツラを中心とする河畔林を復元し、緑のトンネルの中を流れる川づくりを行う。地域と連携した実効性のある取り組みをめざし、社員ボランティアによる森づくり支援も行っていく。

森林は私たちにさまざまなめぐみを与えてくれる。そのひとつに気候の緩和や大気浄化作用があり、エアコンメーカーから見れば「森は地球のエアコン」ということができる。快適な空気環境を提供するダイキングループは、きれいな空気をはぐくむ森林を守り育て、自然の豊かさを取り戻す取り組みをこれからも世界各地で支援していく。■

※画像はすべて ©Conservation International (photo by Anton Ario)

◆ 「Re: エアコン・プロジェクト」

<http://www.daikinaircon.com/eco/>